



平成26年度卒業式（3月8日）

学校法人高知学園
高知リハビリテーション学院

学院報

学院報第21号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成27年3月20日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochi-reha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション

学院への抱負⑩

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜りまことに有り難うございます。保護者の皆様にも少しも学院のことが知っていただき学院と保護者の方々の交流の場として、また保護者の方々と学生の親子のコミュニケーションのきっかけになればということで後援会の役員の方のご意見を踏まえ始めました学院報も第二十一号の発刊を迎えることになりました。

平成二十六年度の後期は十月の学院祭から熱気に包まれてスタートしました。台風十八号、十九号の影響を受けて日程を変更しての開催でしたが、今年も全学生参加のもと「一致団結華やかな祭りをも！」というテーマのもと、若さ溢れる素晴らしい学院祭を披露していただきました。学院では、学院祭を個々の学生の自己発見、自己啓発、他者の能力発見を通じて「チームワーク」で行事を企画実行する大変意義のあるものとして、教育の一環として位置づけております。また野球部も久々に全国大会で活躍をいたしました。十一月に全国専門学校軟式野球大会、四国代表として全国大会に出場し、第三位入賞と輝かしい成績を納めることができました。正に若者パワーで青春を

満喫しております。四年生は四月から始まった臨床実習、四年間の集大成である卒業研究の発表会も終わり、三月の国家試験に向け全力投球で頑張っております。また三年生は四月から行われる臨床実習施設も決まり、専門科目の勉強やセミナー、特別講義など臨床実習に備えて頑張っております。また一、二年生は後期の定期試験も終わり結果が気になりながらもほっとしているところです。今年度は九月二十八日に図書館、パソコン実習室等の別館のお披露目も兼ねまして後援会のご支援をいただき保護者会を開催いたしました。学院の教育や実習への取り組みの説明、各学科からの近況報告や補導主任との個別面談などはじめての試みでしたが、二百六十一名の保護者の皆様の出席をいただき学院にとりましても実りある保護者会だったと思っております。平成二十七年度も五月に後援会の総会と併せて保護者会を開催する予定で後援会役員の方々と企画をいたしております。また創立五十周年に向けての教育環境の整備事業も運動場の確保に加え教育のソフト面（中身）での充実についても積極的に取り組んでいきたいと思っております。今後ともご支援ご協力をよろしく願います。

卒業研究発表会

理学療法学科 補導主任

柏 智之

理学療法学科は六十五名が発表を行いました。発表前日に不安を感じていた学生達も、当日には堂々と発表している姿が印象的でした。発表に至るまでの道のりは長く、指導教員が知らない苦労も数多くあったのではないかと想像します。しかしながら、各自の研究テーマに沿って一連の研究活動の流れを経験できたことは、

学生生活の素晴らしい思い出になったとともに、研究活動を知る一つのきっかけになったと思います。臨床研究は、多くの困っている患者様にとって有益な情報を還元されるために行われています。この卒業研究で得た経験が、卒業後における研究活動への足掛かりになれば幸いです。

作業療法学科 補導主任

西野 愛

作業療法学科は二十八名が発表しました。卒業研究の作成にあたりご指導・ご協力いただきました皆様方に感謝しております。二年次の基礎セミナーでの文献収集、抄読会から始まり、三年次生の応用セミナーでは、研究のテーマ決め、計画書の作成、データの収集、分析、論文の執筆と多くの月日をかけて卒業研究論文を

作成しています。計画の段階では、興味関心はあるもののどのように進めていったら良いものか迷い、前途多難でしたが、研究内容が決まると各教員に助言を受けながら、少しずつ前に進めていき卒業研究論文を完成させることが出来ました。発表会当日は、活発な質疑応答がなされ堂々と発表することが出来ました。これからは、この経験を生かして、対象者の方への援助や学術研究に研鑽してほしいと願っています。

言語療法学科 補導主任

光内 梨佐

今年度は興味がある内容を研究していくためにはどうしたらいいのかについて、悩む学生が多かったです。研究方法を決定するには、自分が今、すすめようとしている研究と同分野の先行研究をまずは読むことが必要だと思いが、その先行研究を探し、その内容を理解することに時間を要しました。しかし、発表会では

学生間で事前の打ち合わせをしつかりと行い、堂々と発表していました。また、多くの先生方からご指摘やご助言を頂いたことで、発表後にもう一度、自分の研究を振り返りながら、最終の仕上げに取り組んでいました。今後も先行研究を理解することはとても大事になると思いますので、論文などを読むということが続けて欲しいと思います。



学生生活を振り返って



理学療法学科
森沢 優哉

僕が学院生活を振り返って、まずは最後まで指導してくださった先生方、支えてくれた家族本当にありがとうございました。四年間ではレクリエーション大会や学院祭、飲み会などの行事があり、みんなでひとつのことを達成する難しさなどを知るとともに絆を深めていきました。また、臨床実習や国家試験勉強では辛い時もありましたが友達と励まし合ったり、苦手な分野を教わり、時には僕も



作業療法学科
江口 貴哉

自分が卒業する番が来たことにまだ実感が持てずにいます。振り返ってみると、あつという間でした。毎年、春にはレクリエーション大会、夏には交流会やよさこい、秋には学院祭がありクラス総出で取り組みました。こうして時間が経つにつれ、クラスがまとまってくるのを感じ、なによりとても楽しかったです。勉学面では、聞いたこともない専門用



言語療法学科
別後 明里

あることがきっかけで入学したこの学院でたくさんのお話を学び、楽しみ、喜び、時には辛いことも経験しましたが、無事卒業を迎えることが出来ました。十五期生はとも賑やかで、皆個性豊かで毎日が本当に楽しい日々でした。学院祭、レク大会ではより一層絆を深めることができ、テスト勉強や国家試験勉強では勉強を教え合う中で大変な日々でしたが今となってはすべての学院での出来事が最

誰かに教えたりすることでお互いの成長に繋がりました。そんな経験を通じて友達の存在の大切さを知りました。四年間のことを思い返すと楽しかった思い出ばかりでこの学院で卒業の日を迎えられることを嬉しく思います。もう同じ教室で勉強することができないうと思つと寂しい気持ちでいっぱいですが、今後は高知リハの卒業生として誇りをもって一人の理学療法士として成長していきたいと思つています。何年後かには四四期生で集まり同窓会ができることを今から楽しみにしています。

語が出てきて不安になることもありましたが、実習では知識不足を実感させられ、自分に作業療法士という仕事を務まるのだろうかと思えることもありましたが、しかし、気持ちが沈みかけた時には友達や先生が声をかけてくれました。この四年間、楽なことばかりではなかったですが、僕の人生において、とても収穫のある時間であったと思っています。これから、一作業療法士として働くにあたり、高知リハリハビリテーション学院の名に恥じぬよう努めていこうと思います。

高の想い出です。卒業して皆それぞれの道を歩んでいきますが、この四年間の思い出を胸にしっかりと歩んでいきたいと思っています。十五期生のもの凄いパワーでたくさんの方を元気にしていきたいです。今まで温かく見守り成長させてくださった先生方、その他学校関係者の皆様、またどんな時でも応援してくれた家族に心より感謝申し上げます。四年間本当に有難うございました。成長した姿でまた皆と会えることを楽しみに、春から一人の社会人として、言語聴覚士として頑張っていきます。

「就職ガイダンスの報告及び就職状況」

就職指導委員長 平賀 康嗣

就職指導委員長 平賀 康嗣

臨床実習を終えた四年次生は、十一月十二月を中心に就職合同説明会への参加、就職マナー講習、病院訪問、履歴書の作成等、就職活動に励みます。平成二十六年年度就職合同説明会では六九施設一五四名と多くの県内外の採用担当者にご参加いただき、熱気あふれる就職説明会となりました。当日は、講堂と食堂に分かれブース形式にて行い、学生達は具体的な雇用条件や職場環境などについて真剣に聴き入っていました。また、県内外の採用担当者の方からも分かり易く説明していただき、会場では真剣な中にも和やかな雰囲気 prevailed、学生にとつて今後の活動の第一歩となる良い機会となりました。二十六年度の卒業生就職割合は、県外二四・四%、県内五一・二%でした。



(日二十七・二月末現在)

))) 教 員 紹 介 (((



理学療法学科
栗山 裕司

私は当学院理学療法学科十九期生として卒業しまして、二十五年が経とうとしています。卒業後は、高知市にある社会医療法人近森会にて、十年間の臨床経験をさせていた

いただきました。その後、教員として当学院理学療法学科に入職し、十五年目を終えようとしています。現在は、二年次生の理学療法測定演習、三年次生の地域リハビリテーション学、脊髄障害等の科目を担当し、理学療法学科二年次生（第四十六期生）の副主任をしています。講義では、私自身が臨床経験にて学んだ考

方や見方を活用し、学生が興味を持ち、よく理解してもらえよう日々考えながら行っています。また、日常的な学生との関わりを大切に、人との繋がりや人間関係を大切にする理学療法士の育成を目指し、私自身も学生と共に成長していきたいと考えております。



作業療法学科
西野 愛

私は、高知リハビリテーション学院の作業療法学科七期生です。今年、本学院に講師として入職をして五年目を迎えます。この三月には、入職当初から担任として四年間

関わった作業療法学科十九期生を初めての卒業生として送り出すこととなりました。私も未熟で毎日が試行錯誤の日々が続き、クラス運営も頼りないこともありましたが、学生達が助けてくれることで、私自身も多くのことを学びました。学生の様子も、この四年間で多くの人々と出会うことになって入学時では、

幼い印象が残っていましたが見違えるように成長し、春からは新社会人として新しい門出を迎えることとなります。一つ節目を終えましたが、本年四月からはまた新たな新入生を迎え、新たな気持ちでしっかりと頑張っていきたいと思っております。



言語療法学科
稲田 勤

学院で教鞭をとるようになって、十六年が過ぎようとしています。気がつけば、昔教えた学生が何人も教員として勤務してくれている状況です。いつのまにか、古株の教員になっていました。担当している教科は、今も昔も小児

領域ですが、専門科目です。で、そのほとんどが三年次生の科目になります。一、二年生のときは、挨拶や会釈といった簡単なことも出来にくかった学生が、三年生ともなると変化があらわれる時期で、四月の講義開始の頃には、毎年感心することがあります。もちろん、大きく変わっているわけではないのですが、四年生が実習の準備を始める時期なので、それを見

ることで緊張も高まってくるのかなと感じています。そんな三年生に、私の授業科目である言語発達学、脳性麻痺、学習障害・広汎性発達障害、拡大・代替コミュニケーションを通じて、国家試験対策のためだけの授業でなく、実習や就職後の臨床に役立つ講義を行いたいと思っています。



防災への取り組み

災害・防犯対策委員長 石川 裕治



平成二十六年年度、災害・防犯対策委員会の取り組みとして、講演会と避難訓練を行ないました。講演会（平成二十七年二月二十日）は、一年次生を対象に、「防災情報の活用」というテーマにて、高知地方気象台の方に、「地震や津波のしくみ」「地震・津波に関する情報」「日頃からの備え」などについて、お話をしていただきました。テレビなどでも話題となっている「南海トラフ地震」を想定した取り組みでもあり、学生、教職員にとって興味深いものでした。また、火災を想定した避難訓練（平成二十七年二月二十三日）を、土佐市消防本部の協力のもと、全学年を対象として実施しました。避難訓練は、高知リハビリテーション学院が土佐市に移転して以来初めての試みでしたが、学生たちは真剣に取り組み、初めてとは思えないスムーズなものでした。また、消火訓練も合わせて行い、初めて消火器を取り扱う者も多く、貴重な経験となりました。

平成26年度 クラブ一覧表

	クラブ名
1	野 球 部
2	フ ッ ト サ ル 部
3	バ レ ー ボ ー ル 部
4	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部
5	ソ フ ト ボ ー ル 部
6	卓 球 部
7	バ ド ミ ン ト ン 部
8	剣 道 部
9	ダ ン ス 部
10	吹 奏 楽 部
11	軽 音 楽 部
12	テ ニ ス 部



文部科学大臣杯
第26回 全国専門学校軟式野球選手権大会 3位入賞

ク
ラ
ブ
紹
介



吹奏楽部



剣道部



地域貢献

作業療法学科教員 有光 一樹

二年程前に高知リハビリテーション学院の同窓会で、理学療法学科九期生の中村純子先生に初めてお会いした時に、先生が地域の方と協力して育てた山北みかんを東北震災後の復興支援として、被災された方々や施設に発送していることを伺いました。その活動を学生達に話したところ、東北のために何か役に立ちたいという思いがあったのか、快くボランティアを引き受けてくれました。そこから毎年みかんの収穫時期である秋と冬にみかん狩りのボランティアが開始され、今では恒例行事となり、学生の方からボランティアの話がでくるほどです。みかん狩りをしながらつまみ食いできるのも魅力の一つです。これからも地域に貢献できるボランティア活動を行っていききたいと思います。

知つとらせ

レポート

《それから第19回の巻》

先だって読売新聞は、中学レベルの講義をしてきた「仰天大学」に文部科学省がダメ出しをしたと、伝えました。前号のこのコーナーで書いた「四捨五入とは何か」を、講義で教えるのは大学の授業じゃないというお達しです。当節、大学でも専門学校でも、算数や理科が学べない入学生が散見されるのですが、国語についても難儀をしている現状があります。専門学校を含めた高等教育では、特に専門科目を学ぶようになってくると、レポートを書くことが学習の一部になります。さらに、医学系分野では、仕上げてレポート(学習報告書や症例報告書)も皆の面前で発表する機会も多くなります。普段、メールやラインで「チョーウザイ！」としか書かない、ということでもないでしょうが、本学院でも今や葉書や手紙の宛名の書き方から手解きが必要となっています。推して知るべしで、レポートともなると何をどう書けばいいのかというレベル以前の指導から始まることも稀ではありません。日本語は話し言葉と書き言葉が違つたため、学習経験がないと書き言葉が浮かびません。さらに、現場(臨床)での模擬練習をさせるとコンビニ言葉で、「治療させて戴いてよろしいでしょうか?」と喋ってしまうくらいに、あらたまたまとマニュアル語しか話せない学生も多いのです。このような学生は、特に書き言葉になると、日本語がハチャメチャです。学生諸君には、「学生時代にレポートをインターネット記事のコピー&ペーストで済ませていると将来に苦労することになりますよ」と言いたいです。そして、文を書くための学習は、時間はかかっても、本や新聞を読み、真似るところから始めてほしいのです。

(教務部 山本)

全国で活躍する卒業生シリーズ①

「自己研鑽」

社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター 障害者支援施設「にじ」
作業療法学科十二期生 野村 心



私は、温泉の街として有名な大分県別府市にあります。別府リハビリテーションセンターで勤務しています。在学四年時に当センターで二カ月間の長期実習を行い、その後、就職いたしました。入職後は、回復期リハビリ病棟を三年経験し、障害者支援施設「にじ」へ配属となり八年目を迎えます。当センターは大分県の高次脳機能障害支援拠点機関として活動しており、「にじ」には県下はもとより九州管内から高次脳機能障害を呈した方が入所・通所されています。入所者の七五%は高次脳機能障害の診断を受けており、生産年齢の方を中心に『地域生活の実現』に向けて実践的なりハビリを提供しています。

医療分野での経験しか無かった私にとって、福祉分野への人事異動は不安がありました。特に、高次脳機能障害者の復職に向けた職業リハビリは経験がなく、戸惑うことばかりでした。そのため、第一号職場適応援助者としてジョブコーチ養成研修や、多方面の学会・勉強会へ参加し、対象者の社会生活力の向上に向けて知識・技術の習得に努めました。日々の現場では、画像所見、神経心理学的検査、行動観察などから個別

性の高い支援計画を立て、作業療法士を中心とした認知リハビリやソーシャルスキルトレーニング等のグループワークを提供しています。また、自動車運転練習や調理訓練、公共交通機関の使用など、地域生活を見据えた実践的な訓練も取り組んでいます。訓練の提供にあたり、先行研究や新しい知見を参考にすることを中心掛けており、在学中よりも教科書を開く機会や、文献を検索する時間が増えています。ある学会に参加した際、講演の中で「対象者に介入する際は、症例報告や論文発表をするつもりで高いレベルの支援をすべきである」と言われたことがとても印象に残りました。知識と経験をバランスよく活用しながら対象者と関わり、学会発表や論文執筆を積極的に行い、多くの先生方との情報交換や助言を受けることで自身の取り組みを見直し、今後の治療・支援に活かせるよう自己研鑽の必要性を感じています。

遊び疲れた学院生活とは違い、社会人として辛いことも多々ありますが、疲れた身体と脳を温泉で癒しながら、障害者の方々へ最適な作業療法を提供しようと考えています。

平成27年度
前期行事予定表

4月4日	入学式	7月30日～8月6日	前期定期試験
4月6日・7日	オリエンテーション	8月7日～9月30日	夏期休業
	健康診断	8月10日・11日	
4月8日	前期授業開始		よさこい祭参加
4月24日	レクリエーション	8月15日	土佐市大綱まつり



食堂 (卒業ランチ)

土佐市就学奨励費について

土佐市在住（土佐市の賃貸宿舍の居住者も含みます）の学生に対して、前期、後期それぞれ3万円の就学奨励費が交付されます。説明会（6月予定）を開きますので、該当する学生は忘れずに出席してください。

スクールバスの運行について

授業の開始（終了）時間に合わせて、JRいの駅⇄天王ニュータウン⇄学院間を1日6往復、スクールバスを運行（無料）しています。いの駅発の第1便は8時15分発です。他のダイヤは各階掲示板で確認してください。学院祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。